イギリスが 17C の危機をうまく乗り切る
☆農業がうまくいった
人口増加の圧力に農業が耐えられなかった
→イギリスでは新技術「ノーフォーク農法」が導入された
→人口が減ることがなかった。穀物が余る
→ヨーロッパに穀物輸出
牧歌的な農業から商品作物生産に転換していった
→小作人達が農地から追い出されていく

従来は、三圃農法。
→フランドル地方で休耕地にカブを植えればよい、ことが発見される。
→これが「ノーフォーク農法」
→小麦の生産性アップ、家畜を殺さなくても冬を乗り切れる!!

時計製造、毛織物、染色、金属加工･･･
新技術がイギリスに導入される
→大陸から技術者がやって来た

なぜか?
プロテスタントとカトリックの対立
→高い技術を持ったプロテスタントの人々が来る
☆「開発型」の植民地を持つことができた
「重商主義」
金が出ていかないようにする→できるだけ輸入しない
金が入ってくるようにする→できるだけ輸出する
→必要な物資を産出する場所を、植民地にすればいい
→植民地で必要な産物を作ればいい!!

西インド諸島を植民地に
→サトウキビ、綿花→英本国へ
プランテーション経営
→商品作物生産を前提に農場経営を始める

旧来は、略奪型の植民地(スペイン、ポルトガル)
西インド諸島に対して東インド

西インド諸島のプランテーション経営がうまく行った
→労働力が不足→アフリカ西海岸から奴隷を導入

アフリカ西海岸の部族社会間の対立を利用して奴隷を購入

→綿製品（キャラコ：インド産）、火薬･武器などが英国から輸出

プランターの息子･娘たちは英本国に留学
→不在地主化
→没落貴族の娘･息子と結婚
→名実ともに貴族化

島全体が砂糖のプランテーション
→食料、木材を北アメリカから輸入

17C ～ 18C に「大西洋システム」ができあがる
英本国、北アメリカ、西インド諸島、アフリカ西海岸、（インド）
→これを前提に、産業革命が起こる
エリック・ウィリアムの説（テキスト 50P）

「大西洋システム」の影響
様々な産業の確立
→海運、造船、銀行、海上保険、蒸気機関･･･

奴隷貿易がこれを支えた
拠点
ロンドン→金融の拠点にシフト
ブリストル→たばこ（ヴァージニア産）の拠点にシフト
リヴァプール
「取り合わせ商品」が優れていた
綿製品（キャラコ）＋α（武器だったり、火薬だったり）
→薄手、柄を付けやすい

こんな人気商品なら、自分たち（自国内）で作れないか?
→試行錯誤、機械化

機械化の歴史
1733 年：飛杼　ジョン･ケイ
1764 年：ジェニー紡績機　ハーグリーブス
1768 年：水力紡績機　アークライト
1779 年：ミュール紡績機　クロンプトン
1785 年：力織機　馬力による　カートライト
1789 年：蒸気力による
1793 年：綿繰り機　ホイットニー
→ランカシャー地方を中心に機械制綿工業が発展

なぜ綿工業だったのか?
→「大西洋システム」「奴隷貿易」
東インドの綿製品の世界的人気（アフリカ西海岸、英国、欧州 etc.）

機械制→熟練した職人がいらないシステム
→労働力の商品化が本格化する（1820 年代）

労働力という特殊な商品
→賃金、労働時間、児童労働、性別などといった労働条件が極端に悪化!!
英国内で労働力が余っていた
→農地から追い出された小作人、飢饉から逃れてきたアイルランド人

奴隷＝財産

「産業革命」
アーノルド･トインビーが名付け親?
→何が「産業革命」については、百家争鳴状態

綿工業の特徴
☆世界市場に依存しながら展開
ex.原料（綿花）：熱帯、亜熱帯産
アメリカ合衆国、西インド諸島、ブラジル、エジプト、インド
製品の販路
英国内、欧州大陸、インド（1820 年代～）
→インドの綿工業は、壊滅的な打撃を受ける

world-wide な経済の展開
→商品経済は、最初からグローバルなんだ!!

要するに、アメリカ合衆国、西インド諸島 etc.が英国を中心とする世界経済に組み込まれる、ってこと

で、アメリカ合衆国の場合
ナポレオンの台頭
→ 1812 ～ 1814 年米英戦争によって、
原料（綿花）を輸出、工業製品を輸入、の流れができてくる。
貿易収支：対英赤字
→連邦債、州債などをロンドンで発行→貿易外収支で埋め合わせる

インドの場合

19C の始め頃
藍、生糸、砂糖などを輸出、工業製品を輸入
貿易収支：対英黒字
→インドの植民地化で対応
→土地に対する税金で（一部）埋め合わせる
→「本国費」として還流
☆東インド会社の配当金として
☆軍の派遣費用として
☆軍人の恩給･手当として
☆軍需品･行政資材の購入として etc.

インドの植民地化の歴史
1798 年：ハイデラバード保護国化←マハラジャ（藩王）
1848 ～ 1849 年：第二次シーク戦争、全インドの植民地化完了

残りをどうするの?
中国の場合
お茶、絹などを輸出、輸入産品がない
貿易収支：対英黒字
→インド産のアヘン貿易で対応
ベンガル地方産
→これで、インドの対英黒字を解消

1839 ～ 1842 年：アヘン戦争
1870 年代以降中国国内でアヘンの生産が行われるように･･･